福井県衛生環境研究センター活動報告　概要

発表演題名	赤痢菌と誤同定された腸管出血性大腸菌への対応
発表学会名	令和２年度地方衛生研究所全国協議会東海・北陸支部微生物部会
発表者名	永田　暁洋（保健衛生部）
開催場所	富山県衛生研究所（オンライン開催）
発表日時	令和３年３月５日（金）　10：00　～　16：00
発表内容	医療機関検査室が、腸管出血性大腸菌を赤痢菌と誤同定した事例が発生したため、地方衛生研究所としての円滑な検査手順について改めて検討した。 当所に搬入された患者の糞便等の一部から菌分離を試みたところ、DHL 平板および SS 平板上で無色透明の赤痢菌様コロニーが発育し、その分離菌は、赤痢菌免疫血清で複数の多価血清に遅れて凝集を認め、SIM 培地での運動性は認められなかった。しかし、その他の生化学性状検査および PCR 検査の結果（*invE* および *ipaH* 遺伝子陰性）から赤痢菌は否定された。また、追加実施した multiplex PCR 法により *stx2* および *eae* 遺伝子が陽性であった。市販の病原大腸菌免疫血清では、O 群のいずれにも凝集を認めなかった。 当所の検査実施標準作業書（SOP）は、誤同定菌株や疑い段階の検体の搬入を想定したものとはなっていない。そのため、作業手順通りに実施した結果、今回の事例では検査結果の報告に通常より日数を要した。また、濃厚接触者の検査がやり直しになる可能性もあった。 赤痢菌と腸管出血性大腸菌については、誤同定は十分に想定されることから、鑑別検査を本来の菌株性状検査と同時並行で実施するような SOP に改定することも検討しなければならない。今後は、誤同定事例に対しても迅速に結果報告できる体制としたい。